

市民からの意見募集結果について

1 目的

「コミュニティ活動の在り方検討委員会」で取り上げられている諸問題を中心に、市民の方々から意見を募集し、寄せられた意見を委員会の報告書の参考にする。

2 募集方法

市報、ホームページ、行政放送、FM ひたちで周知し、郵送かEメールで提出

3 募集期間

令和2年4月5日から5月8日まで

4 募集内容

- (1) 地域にとって必要なコミュニティ活動について
- (2) これからの時代に合ったコミュニティ活動について
- (3) コミュニティ活動に有効な活性化策について
- (4) これからの町内会・自治会の在り方について など

5 提出件数

4件

6 主な意見

(1) コミュニティの現状・イメージ

ア 社会構造や住民の意識が大きく変化した現在、従来どおりの活動で自治会の存在意義を示すのは難しい。

イ 面倒くさい、義務・責任感が強すぎ、行政の代行業務、面白くなさそう、上の世代との関係が嫌だ、ボランティアというより仕事である。

ウ 会長の選出過程が不透明、かつ任期が長い方が多い。

エ 「負担感が大きい面倒な団体」（集まりや行事が多い、一部の人がやっている、やらされている感が大きい）である。

オ コミュニティ活動に対して無関心な方が多い。

カ 地域住民と「コミュニティ」との意識の乖離が大きい。

(2) 今後の対応策

- ア 継続する活動は、①参加する人にとって欠かせないもの、②やっけていて楽しいことが大切である。
- イ 人材確保のキーワードは「子どもと楽しく」である。
- ウ 子育て世代が参加しやすく、また世代を超えて楽しめるイベントの企画が必要である。
- エ 組織のスマート化を図る。
- オ 活動内容の軽減を図る。
- カ 学校との関連付けを明確にする。
- キ 次世代を担う人材との交流の機会を創出する。
- ク コミュニティ活動の必要性について啓発活動をする。
- ケ 会長選出方法の公表や定年制の導入が必要である。
- コ 「見えるコミュニティ」をPRする。
- サ 「コミュニティビジネス」で若い力を活用する。

以 上